

# 若潮国体から世界へハイジャンプ

このコーナーに登場してくれる人を募集します。  
くわしくは広報課(☎20-15003)へ。



若潮国体の県代表選手たちと(中央が越川さん)

## 越川 一紀さん(千葉市)

香取市出身。成田高校から順天堂大学。元・走り高跳び日本記録保持者、モンテリオール五輪代表。国体優勝も数度。指導者としては成田高校陸上部監督時代にインターハイ総合優勝(3回)。現在は順天堂大学准教授で同大陸上競技部監督、全日本インカレ2年連続総合優勝



「中学生の時にテレビで見たんですよ、2m20cmの日本記録ジャンプ。まさか自分が塗り替えることになるとは、当時思ってもみなかったですね」

走り高跳びで高校記録・日本記録を塗り替え、モンテリオール五輪にも出場。成田高校在学中には身長より49cm高いバーを越え、当時、身長差で「世界一」と騒がれた。

陸上競技との出会いは中学2年の秋と、意外に遅い。体育の時間にやった走り高跳び、見よう見真似でやってみるとクラスで一番になった。

「高いバーを越えることが、すごく面白かった。それまでは帰宅部でしたが、陸上部へ入部することにしました」

その後メキメキと実力を付けるも、中学では県大会2位が最高。初めから「超一流」というわけではなかった。

成田高校入学後、恩師の滝田昭生先生との運命的な出会いが、秘めた実力を開花させた。入学当初、全国で100番にも入らなかったのが、3年のインターハイで優勝、さらには高校新記録を更新するまでに。

高校最後の年は、優勝候補として地

元開催の若潮国体に臨んだ。会場にはクラスメート全員が応援に駆け付けてくれた。当然、気合いも入ったのだが、結果は振るわず5位に終わる。

「身長が低いわたしにとっては、助走のスピードが命。あの日は雨で足元が滑り、思い切り踏み切れなかったんです。悔しかった。でも、あの経験があったこそ、その後の成長があったんだと思います」

その後は、国体・日本選手権・アジア選手権優勝、五輪出場など、日本の高跳び界を牽引した。現在は、母校・順天堂大学陸上競技部の監督として後進の指導に当たる。

ゆめ半島千葉国体には、アテネ五輪代表の花岡麻帆選手やアテネ・北京五輪代表の澤野大地選手など、多くの教え子たちが出場した。競技を引退した今は、彼らの活躍が何よりうれしい。

「これからもずっと、指導者として陸上競技に関わっていくと思います。次の千葉国体の時には100歳くらいい!?それまで、頑張れるかなあ」

大学4年時に出した2m21cmの日本記録は、すでに破られた。しかしそれも、教え子たちがいつか塗り替えてくれる。

## 編集後記

「灯台下暗し」といいますが、旅行や仕事などでよく出歩いている人でも、地元のことは案外知らないということがよくあります。自分も本紙の記事を見ていて、その場所が市内のどの辺りかピンとこないことも。こんなとき便利なのが今回リニューアルした「成田ふるさとガイド2010」(P9)です。この市内全図を見れば、地名はもちろんのこと、市の主な施設や名所旧跡も一目瞭然。また、四季折々の伝統行事や名産品の紹介も。“これを見れば成田が分かる!”。さあ、皆さんもガイドを片手にまずは足元を明るくしてみたいかが。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。